

LIXIL

あなたの作品を、
もっとステキに見せるために。

エクステリアフォト 撮影ハンドブック



施工作品をステキに撮って、 お店の宣伝に活かしませんか。

もっとステキに撮影したい！プロのような写真でもっとアピールできたら・・・。

そんなお悩みを解決できる「エクステリア撮影ハンドブック」を皆様にお届けいたします。

手軽に！キレイに！カッコよく！

撮影テクニック、雰囲気作りや植栽との調和、光や照明の取り入れ方など初心者にもやさしい基礎知識編から、レベルアップを目指す実践編や商品別撮影方法まで幅広く掲載しています。ぜひ、たくさんの写真をステキに撮影し、ホームページやチラシ、お客様への事例紹介など自社アピールにご活用ください。

また、LIXILエクステリアコンテストにも皆様のステキな写真を作品としてご応募してみたいはいかがでしょうか。撮影した写真は、お施主様や販売工事店様のこだわりがぎゅっと詰まった一つの「大切な作品」です。「大切な作品」をアルバムの新しい1ページにするお手伝いができれば幸いです。





エクステリア&ガーデンアカデミー
学長
(補)エクスプランニング
代表取締役

きれいな施工写真は、実績づくりと信頼アップにつながります。

LIXIL エクステリアコンテスト審査委員長 古橋 宜昌

一般のお客様がインターネットで専門店様を探される場合、最も参考にされるのがホームページ上の施工写真ではないでしょうか。長い文章を用いて自社のデザイン性をアピールするよりも素敵な写真が一枚あれば多くを語らなくてもお客様の心を掴むことができます。

まさに「百聞は一見にしかず」それ程写真には力があるのです。

最近ではカメラの性能も向上してきており、プロのカメラマンが使うような高級なカメラを使わなくても綺麗な写真が撮れるようになりましたが、やはり大切なのはその構図です。

同じ物件でも構図によってイメージはまったく変わってしまいますので、その作品が最も美しく綺麗に見える構図をよく吟味しましょう。また、写真を撮る時間帯も重要で、建物の北側と南側では太陽光の当たり方も違います。夜の写真を撮影する場合も真っ暗闇の中では感動的な写真を撮ることはできません。どうかこの冊子の中でご紹介している様々なテクニックをご確認いただき、「記録に残す写真」ではなく「記憶に残る写真」を撮って、エクステリアコンテストにも奮ってご応募いただければ幸いです。

撮影テクニック《基礎知識編》

カメラの機能や、撮影の時間帯・方位など、撮影前の基本をチェック。


手軽にはじめるならスマホ、コンデジ。上級者を目指すならデジタル一眼。

はじめてデジカメを使うなら、操作が簡単なコンパクトデジタル(コンデジ)が便利。シーン別撮影モードで、現場に応じたきれいな写真が手軽に撮れます。最近はスマートフォンもカメラ機能が進化し、難しい機能設定や知識がなくても、シャッターを押すだけできれいな写真が撮れるようになりました。ズームレンズが備わっている機種も増えましたので、スマホを活用するのもよいでしょう。

より上級者を目指すならレンズが交換できるデジタル一眼(デジイチ)やミラーレス一眼がおすすめです。さらにより高画質な画像にこだわるなら、撮像素子の大きい(画質が高い)機種を選びましょう。

◎三脚を使いましょう。

高さ調節や手ブレ防止に有効なのが三脚です。シャッタースピードが遅くてもブレることなく撮影することができます。またセルフタイマーを使うことで、シャッターを押す際の手ブレを防げます。

種類				
特長	デジタル一眼(デジイチ)	ミラーレス一眼	コンパクトデジタル(コンデジ)	スマートフォン
大きさ(重さ)	大	中	小	小
レンズ	交換式	交換式	固定式(レンズが選べない)	固定式
露光	自動およびマニュアル設定可能	自動およびマニュアル設定可能	自動※	自動
撮像素子(画質)	大(高画質)	中	小	小

※ハイエンドモデルでは一部マニュアル設定可能
[エクステリアコンテストに応募する際の注意点]
写真1点あたり3~6MBのJPEGデータが理想です。

カメラの機能を上手に使いこなしましょう。

カメラには写真をきれいに撮るための便利な機能が付いていますので、積極的に活用しましょう。

【ホワイトバランス】とは？

カメラは、光源の種類によって写る色合いが変化します。これを補正し、見た目に近い色を再現するのがホワイトバランスといいます。



太陽光 ➡ [AWB] オートに設定



白熱灯・蛍光灯 ➡ オート以外(例:白熱灯モード)



[AWB] オートホワイトバランスモード
白熱灯の室内を「オート」で写すと、少し黄色の画面に。



☀️ 白熱灯モード
「白熱灯」モードに設定し、黄色味を軽減。

【撮影モード】とは？

撮影シーンに合わせて、シャッター速度やレンズの絞りを設定することができます。

はじめはオートモードが良いでしょう。

オートの中には、「風景」「夜景」などのシーン別モードがあり、状況に合わせて活用しましょう。

※撮影モードの名称はメーカーにより異なります。



🏞️ 風景モード

近くから遠くまで、広い範囲にピントが合った写真が撮れます。



🌙 夜景モード

夜間や薄暮での照明写真に最適です。

【露出補正機能】とは？

オートで撮影した場合でも、曇りの日や逆光などで必ずしも思い通りの明るさになるとは限りません。そのようなときは露出補正を使うと良いでしょう。露出補正の「+/-」ボタンを押して調整します。



露出アンダー

暗い写真になった場合、「+」方向に露出補正。



露出適正

ちょうど良い明るさに。



露出オーバー

明るすぎて白とびした場合、「-」方向に露出補正。



「雨の日」の撮影は避けましょう。

撮影は、青空が見える晴れの日がベストですが、日差しの影響を受けにくい曇りの日も良いでしょう。雨の日は写真が暗くなってしまったりデメリットの方が多いので、できるだけ避けましょう。

☀️ 晴れの日

色やコントラストが鮮やかに出るので、植栽や青空を入れた撮影に最適です。ただし、日差しが強過ぎると陰も強く出てしまうため、電柱などの影がエクステリアにかからないような時間帯に撮影しましょう。

☁️ 曇りの日

影が出にくいので、どの時間帯でも撮りやすいです。ただし、空一面が雲で覆われてしまった曇天の場合、空が白く写ってしまい、全体がぼやけた写真になってしまうので注意しましょう。



豆知識

黒つぶれや白とびを、HDR機能で解消。

強い日差しの影響で、屋根の日陰の部分が黒つぶれしたり、逆に明るい白い壁が白とびを起こしたりする場合があります。この場合、HDR(ハイダイナミックレンジ)機能が簡単に解決してくれます。曇り空で薄暗い場合や逆光になるときなどにも効果を発揮します。HDR機能付デジカメの場合はぜひ活用してみましょう。



通常モード

ガーデンルームが白とびし、植栽が影で黒つぶれてしまう。



HDRモード

白とびやつぶれを抑え、実際の見た目に近い光景に。

撮影対象の向きと太陽の位置を考えて撮りましょう。

撮影する商品の向き(方位)や季節・地域などによって、太陽の位置による陰影が変わります。撮りたい角度から見て、なるべく商品に光が当たる時間を選びましょう。商品によって、真上からの日差しが良いか、夕方の斜光が良いかは個々に異なりますので、最適な時間と向きをよく見極めてから撮りましょう。

◎南向きの場合

太陽が真後ろに来るお昼頃は、左右に影が出ないので、写真に立体感が出ません。午前中またはお昼頃を過ぎた午後には撮影しましょう。

◎東向きの場合

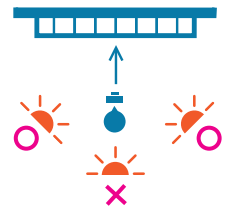
建物に良く日が当たる午前中の早い時間がおすすです。

◎北向きの場合

終日逆光となるので、日差しの強い晴れの日比曇りの方がきれいに撮れる場合があります。

◎西向きの場合

お昼過ぎから夕方前頃がおすすです。



完全正面光は避ける。
太陽の位置が真後ろにくる時間帯は避けましょう。

小物などを置いて雰囲気を出しましょう。

ガーデンルームには、ファニチャーや食事風景など普段から庭を楽しんでいる雰囲気が感じとれる演出をしましょう。また、ウッドデッキや門まわり、車庫まわりなどにはプランターを配置したり、植栽とエクステリアの融合を表現しましょう。

豆知識

不要なものは写さないようにしましょう。

洗濯物や掃除用具などが写り込まないようにしましょう。他の建物の洗濯物、看板などがある場合はできる限り写らないようなアングルで撮影すると良いでしょう。



作品のテーマやアピールポイントを伝える、最適な構図を探してみましょう。

◎いろいろなアングルから撮影してみる。

主役であるエクステリアをいちばん良く表現できるのはどのアングルか、前後左右に場所と距離を変えながら、あらゆる角度から撮影してみましょう。三脚を使うと手ブレ防止や高さ調節が簡単にできます。



左から



正面



右から

豆知識

カメラの向きと高さについて。

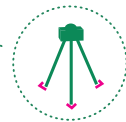
被写体に対して水平にカメラレンズを向けるのが基本です。カメラの高さは、建物全体を撮るなら人の目線の高さ、商品寄りでは商品の半分より少し下の高さを目安にしましょう。

カメラの高さは、商品の半分より少し下ぐらいの高さ。



カメラレンズを被写体に対して水平に保つ。

たとえば、昼と夜、リフォームの前と後など同アングルで撮りたい場合は、カメラの位置を忘れないように地面に目印をつけておく便利です。



◎タテ位置／ヨコ位置を使い分ける。

エクステリアとその周辺の様子が見えるよう、まずはヨコ位置を基本に構図を決めていきましょう。

奥行き感や高さを表現したい場合は、タテ位置が適しています。

ヨコとタテを切り替え、主役の魅力が最大限に伝わる構図を見つけましょう。



ヨコ位置



タテ位置

◎上下の高さも試してみる。

撮影場所によっては見せたいポイントがより伝わりやすいよう上下の視点を変えて、ローアングルやハイアングルで撮影してみましょう。



ハイアングルでガーデンルームから庭へと広がる空間を表現。



ローアングルでカーポートのシャープなデザインと植栽の緑を印象的に。

水平・垂直ラインを合わせて撮りましょう。

写真は、水平・垂直のラインがしっかり整っている方がきれいに見えます。

デジカメに内蔵されているグリッド線表示機能を使って、手軽に水平・垂直の目安にすることができます。

傾斜のある場所は、水準器を使うと水平・垂直ラインを簡単に確認することができます。

また、狭小地など、あまり引きがない場所は、脚立を使ってアングルを高くすると歪みのない写真を撮ることができます。

◎グリッド線表示機能を使う。



グリッド線表示により水平・垂直ラインを手軽に合わせることができます。



◎傾斜地でも垂直ラインを合わせる。



画面内に垂直の目安となるものを決めてから撮りましょう。(写真では柱を目安にしています)

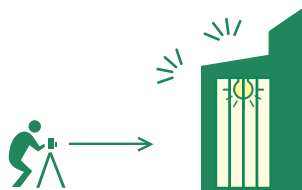
雰囲気のある夜の写真は、薄暮の時間帯で。

昼と夜では同じ場所でも、まったく趣が異なる写真になるので、ぜひ挑戦してみましょう。

周りが幾分暗くなりはじめ、空に明るさがまだ残っている薄暮の時間帯がベストです。

建物内外の照明をすべて点灯し、三脚を使いフラッシュ無しで撮影しましょう。

先に昼の撮影をしてから、同じアングルで夜の撮影をすると失敗も少なくなります。



建物の照明をすべて点灯させ、三脚を使ってフラッシュ無しで撮影。

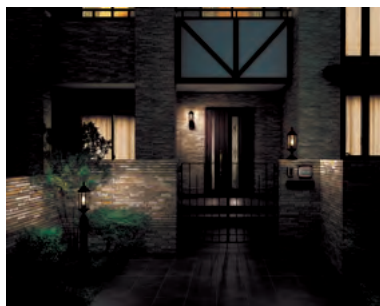


豆知識

ISO感度の設定で暗いシーンに対応。

薄暮や日陰での撮影では、ISO感度を上げてみましょう。

ISO感度を上げると、暗いシーンでも明るい写真が撮れるようになります。



通常のISO100程度では暗くなってしまふ。



ISO1600程度に設定するときれいな夜景の写真に。

商品別撮り方のポイント

それぞれの商品が最も引き立つポイントを考えて、ワンランク上の写真に。

門扉・フェンス、カーポートを撮る。

建物全体との調和を考えた
アングルで。



建物全体を入れると、家の外観にマッチしたカーポートであることが伝わります。

まず商品周辺の様子分かるように建物全体から撮影してみましょう。門や車庫に近寄りすぎると、建物との調和が伝わりにくくなります。「設計や空間の構成で着目してほしい点があるか」を考えると構図が決めやすくなります。たとえば、門扉から玄関までのアプローチの連続性が魅力なら、それがわかる画面構成で写真を撮ってみましょう。



門扉から玄関までつながる意匠性をとらえることができます。

水平・垂直ラインを合わせて、
見やすい写真に。

外観写真を撮る時は、カメラを水平にして地面に対してレンズ面を垂直に向け、建造物の縦のラインが垂直になるよう撮りましょう。門まわりや車庫まわりのような広い間口をすべて入れて撮りたい場合は、斜めから撮ると奥行き感のある良い写真になります。



グリッド線表示を利用し、垂直をとりましょう。
(写真では柱に垂直を合わせています)

床材などは濡らして
素材感を出す。



日差しが強いと、地面のコンクリートや床材などのアプローチが白とびしてしまうことがあります。この場合は、床材に水を撒き、モップで水気を軽く取ってから撮影すると、素材感ができて良い雰囲気の写真が撮れます。



幻想的な夜の写真にも挑戦。

特に夕景は、家族や訪問客をお迎えする空間として門まわりを象徴的に表現することができます。



ガーデンルーム、テラス、ウッドデッキを撮る。



家と庭空間の位置関係・
バランスがわかるように。

商品に近寄りすぎず、庭やテラス空間全体との調和を意識し、
植栽の緑を活かした構図とアングルを探しましょう。
高さに工夫を加えると、雰囲気の良い写真を撮れる場合が
ありますのでいろいろなアングルを試してみましょう。



庭の緑を大きく取り込んだ写真。



生活空間のこだわりを高いアングルで表現。

ガーデンルームの内観も撮りましょう。

ガーデンルームの中にある視点で内観写真を撮ってみると、
外観写真だけでは伝わりにくい雰囲気を表現できます。
ガーデンルーム内を広く見せたい場合はぜひ、
家の室内側から撮影しましょう。
正面から写すのは避け、左右どちらかに寄って
撮ると奥行き感を出すことができます。



カメラの高さの目安は、
商品の半分より少し下から。



照明を使い、より印象的に。

室内の照明を使い、庭・テラス全体を効果的に
ライトアップすると、より印象的な表情が切り取れます。
他の薄暮写真と同様、日没の前後の時間帯がおすすめです。



アイテムを使って
ガーデンライフを演出。

ガーデンライフをイメージしやすいテーブルやイスなどの
ファニチャーを用意すると一層雰囲気が出ます。
庭の植栽も一緒に撮るとより美しい仕上がりになります。



公共エクステリアを撮る。

建物や周辺環境との
つながりがわかる構図で撮る。

公園や駅前広場、学校・病院などの建築外部空間は、規模が大きく、多くの人が行き交う場所です。全体の規模や広がりが出る遠景の構図と、「安心」「安全」「快適性」などのテーマが感じられるエクステリア商品に寄った構図など、遠近さまざまな場所から撮りましょう。



全体の規模や広がりが出るよう、引いた構図で撮ります。



駅前のバスシェルターやベンチなどは、背景に駅舎が入ると周辺環境とのつながりや調和性がわかります。



代表的なモニュメントなどがあれば、積極的に取り入れてみましょう。



商品に近づき、斜めから周辺環境を入れて写すことで、商品の特性を表現することができます。

普段の様子がわかると、
利用者の使用感がより伝わりやすい。



草木の緑を入れて、
自然との調和を伝える。

近くに植栽があれば、なるべく構図に入れながらカメラの位置を探しましょう。自然との調和の工夫を伝えることで、パブリック空間としての印象をより深めます。



自然との調和を伝えるときは、植栽などを構図に取り入れましょう。



公園など広範囲に及ぶ場合は、全体の構図を見せつつ緑を取り入れることも重要です。

リフォーム前と後の変化と工夫を撮る。



リフォーム前、リフォーム後の写真は、「劇的にきれいになった!」「使いやすくなった!」など非常に強いメッセージを伝えることが大切です。リフォーム前後の写真は、撮影位置、構図やアングル、明るさなどが同じになるのがベストです。まずリフォーム前の写真は、現調写真とは別に撮影することをおすすめします。工事に入る前に撮影日を設けて、いろいろなアングルからたくさん写真を撮影しておきましょう。リフォーム後の写真に合う選択肢を増やすためにもリフォーム前の写真の豊富さが重要なポイントとなります。

リフォーム前と後の変化をドラマチックにとらえる。

After

Before



ほぼ同位置でとらえたビフォーアフター写真。アフター写真を薄暮写真にすることで、よりドラマチックに変化した印象を与えます。

リフォーム前と後が同じ現場だとわかるように撮る。

建物の形状や窓の位置、隣地など
リフォーム前と後で共通のものを入れて撮ると、
同じ現場であることがわかりやすくなります。
リフォームの改善点がよく伝わるポイントを選んで撮ってみましょう。

Before

家のエントランス部分を同じようにとらえることで、同じ現場であることがわかります。



Before

どちらも雨樋が写っており、同じ現場であることがわかります。



After



After





エクステリアと家族の幸せを撮る。

家族の自然な笑顔を引き出しましょう。

お施主様やそのご家族に登場していただき、幸せあふれる雰囲気の良い写真を撮ってみましょう。人物を入れた写真は、いかに自然な笑顔が撮れるかがポイントです。最初は門扉やガーデンルームなどをバックに記念撮影からはじめると良いでしょう。ご家族と会話をしながら撮影すると、リラックスでき自然な雰囲気で撮ることができます。記念撮影が終わったらここからが本番。ガーデンルームやテラスで寛いでいただき、ご一家でおしゃべりしたり、絵を描いたり、ゲームをしたり、普段通りの様子をさりげなく撮影していきましょう。



ペットがいれば、いっしょに撮りましょう。



おもちゃなどを渡してお子さまだけで遊んでもらうと、楽しい絵になります。



好きなことや最近流行っていることなどを話題にすると自然な笑顔に。

ご一家のライフスタイルを感じさせる演出を。

ご家族を入れて撮影する前に、まずは施工写真を撮っておきましょう。この場合は、お施主様のライフスタイルを感じさせる演出をしましょう。例えば、テーブルにティーセットを置くだけで、ガーデンライフを楽しむ家族の光景を撮ることができます。



ちょっとしたテーブルセッティングで家族の暮らしぶりが見えてきます。



実際にティーパーティーを楽しんでもらい、笑顔の写真をバッチリ。

番外編 撮った写真を、よりきれいに見せるテクニック

「もう少し明るく撮りたかった」「建物が少し傾いている」……。

撮影後にこんなことが気になったら、Googleなどの無料画像編集ソフトで手軽に修正することができます。

Adobe Photoshopなどの市販ソフトなら、垂直の歪み調整など、より高度な編集も可能です。



◎写真の色を自然に、明るく調整する。

写真全体が薄暗かったり、空の青色や植栽の緑色が実際の色より足りない場合は、画像編集ソフトで補正することができます。



植栽の緑をもっと鮮やかにしたい。



緑が濃くなり、いきいきとした印象に。



空が薄暗い雰囲気。



コントラストがつき引き締まった写真に。

◎不要な部分をトリミングで修正。

隣接する家並みが画面に入ってしまった場合は、画像編集ソフトの切り抜きツールなどでトリミングしましょう。



電柱が画面に入ってしまった写真。



不要な部分だけ切り取って修正。

◎歪みのない自然なアングルに修正する。

建物全体を入れて撮る場合はカメラをやや上向きに傾けるため、レンズの影響で、上の方がすぼみ、八の字のようなあおりの写真になります。この歪みも画像編集ソフトを使えば修正できます。



外観写真は、このような先ずぼみの写真になりがち。



垂直を補正して自然な仕上がりの画像に。

※ Adobe Photoshopなどの市販のソフトで利用できます。

【エクステリアコンテストに応募する際の注意点】 応募の際は、大幅な修正はご遠慮いただき、自然なまままでのご応募をお願いいたします。

LIXIL エクステリアコンテストは 毎年開催。

●「LIXILエクステリアコンテスト」は、
LIXILエクステリア商品をご採用いただいた全国の
販売施工業者様を対象に、施工写真を募集し、
すてきなエクステリアを表彰するコンテストです。

●受賞作品は、優秀作品集・LIXILエクステリアコンテスト
ホームページ・エクステリア総合カタログなどに掲載します。

※応募要項についてはホームページをご覧ください。

<https://www.biz-lixil.com/contest/exterior/>

LIXIL エクステリアコンテスト

検索